

令和5年度 第1回瑞穂市総合教育会議 会議録

令和5年5月23日（火）午後1時00分開議

○日 程

開会

1 あいさつ

2 議題

- ・瑞穂市市制20周年を迎えて
- ・保育士支援アドバイザーについて
- ・市の人口減少対策について

3 その他

閉会

○出席者

市 長	森 和 之	教 育 長	服 部 照
教育長職務代理者	森 下 伊三男	教 育 委 員	加木屋 加緒里
教 育 委 員	大 平 高 司	教 育 委 員	伊 藤 清 美

○欠席者

なし

○説明のため出席した者の職・氏名

教育委員会事務局長	佐 藤 雅 人	教育総務課長	井 上 克 彦
学校教育課長	郷 通 芳	幼児教育課長	今 木 浩 靖
生涯学習課長	松 島 孝 明	給食センター課長	松 野 光 広

○職務のため出席した者の職・氏名

総 務 部 長	石 田 博 文	総 務 課 長	野 田 秀 樹
総 務 課 主 幹	井 上 源 英	総 務 課 主 事	黒 坂 昌 平

○傍聴者

0人

開会 午後1時00分

開会の宣言

○野田総務課長 皆さんこんにちは。本日は、大変お忙しいところ、令和5年度第1回瑞穂市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の司会は総務課の野田が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは会議に入る前に皆様方にお諮りをいたします。本会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第6項の規定により、原則公開となっております。現時点で傍聴者のかたは見えませんが、希望者があった場合は認めるということによろしいでしょうか。

(全員同意)

ありがとうございます。もう1点ですが、「瑞穂市総合教育会議運営要綱」第7条の規定に基づき、議事録には、出席者の指名等が公表されますので、よろしくお願いいたします。

それでは、はじめに森市長よりごあいさつを申し上げます。

あいさつ

○森市長 改めまして、こんにちは。本日は、お忙しい中、令和5年度第1回瑞穂市総合教育会議にお集まりいただき、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

また、皆様には、日ごろから瑞穂市の教育に格別なるご協力とご理解をいただいておりますことにもお礼を申し上げます。

緑が本当に美しい良い季節を迎えています。

新型コロナウイルス感染症について、これまでは県から瑞穂市の感染者の報告が毎日ありましたが、今は、1週間に1回、市内の開業医の先生方に感染状況をお聞きしており、市内の感染状況は落ち着いております。

ただ、中国の北京を中心として感染が拡大しているようです。1週間に6,500万人程度の感染者が確認されており、6月末頃がピークになると予想されています。新しい変異株の出現などにより感染がこれ以上拡大しないことを願っています。

本日の議題に挙げている人口減少対策について、本日の新聞の一面にも子育て政策、少子化対策に関する国の予算が倍増するのではないかという記事が載っておりました。後程、瑞穂市における人口減少対策について、国が、なぜ今、人口減少対策に舵を切ってきたかについて、先週、東海市長会に出席した際に国の職員から伺った話も交えながら、述べさせていただきます。

最近は、自然災害が増えてきています。

5月5日に石川県珠洲市で震度6強の地震があり、立て続けに千葉県、鹿児島県、北海道で地震が観測されました。

日曜日に木曽三川の水防演習に参加した際に、気象庁ブースで、「地震が全国的に発生しているが、東海地方でも発生する可能性があるか」と質問しました。

気象庁の方は、「大きな地震は100年から150年の周期で発生しており、東海地方では1040年を最後に震度6程度の大きな地震がなく、これから10年から20年くらいの間に、70%から80%の確率で東海地方にも地震が発生すると予想している。」とおっしゃっていました。

瑞穂市でも大きな地震に備えて、しっかり対応をしていかなければいけません。

また、大雨についても、昨日、首都圏で1時間に35ミリから40ミリくら

いの集中豪雨があり、場所によっては道路が一時的に冠水したようです。瑞穂市でも降水量が増える時期に向けて、水害への備えをしていかなければならず、備えの1つとして、6月4日に瑞穂市の水防訓練を行う予定です。

さらに、猛暑については、17日に岐阜県揖斐川町で35.1度を観測し、7月下旬に相当するような気温になりました。市内では、穂積北中学校の生徒が1名救急車で搬送されました。

地震、雨、そして猛暑といった自然災害にこれから警戒をしていかなければいけません。

最後に、5月2日に大垣市内で強盗事件がおきました。日中に2人の若い強盗犯が、家主が在宅中にもかかわらず、その家に侵入し、金銭を強盗した事件でした。強盗犯の2人は闇バイトに応募して、指示されたとおりに強盗を行ったようで、計画性があるようでないような事件に若い人たちが巻きこまれており、少し戸惑っています。

長くなりましたが、本日は、3つの議題ということで、瑞穂市市制施行20周年を迎えて、保育士の支援アドバイザーについて、さらには人口減少対策について、皆様からのご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げ、冒頭のあいさつとさせていただきます。

○野田総務課長 ありがとうございました。それでは「瑞穂市総合教育会議運営要綱」第4条の規定により、これより森市長が議長となって会議を進めていただきたいと思います。

議題 瑞穂市市制20周年を迎えて

○森市長 それでは議長を務めさせていただきます。1つ目の議題は、「瑞穂市市制施行20周年を迎えて」についてです。

瑞穂市は、今年の5月1日に市制施行20周年を迎えました。

教育委員の皆様方には子どもたちの教育に関して、ご尽力いただいておりますことに、改めて感謝を申し上げます。

瑞穂市の市政の発展に向けて新たな一步を踏み出していくために、20周年を機に、このまちをよくしていくための3つのテーマとして、人権、平和、環境を掲げています。

人権については、今年3月の市議会で人権尊重宣言の議決をしていただきました。平和については、平成22年の11月に非核平和都市宣言を行っております。そして環境については、今後5年間に「環境都市みずほ」のような宣言をしていきたいと考えております。

それでは、事務局から説明をお願いします。

○野田総務課長 （資料に基づき、「瑞穂市市制20周年を迎えて」の説明）

○森市長 ありがとうございました。今、事務局から説明をしてもらいましたが、私の20年への想いは、今までの瑞穂市の歩みを振り返るとともに、人権、平和、環境という3つのテーマで瑞穂市が引き続き発展できるように、先人から受け継がれてきた美しい自然や伝統文化を大切に継承しながら次の時代へつないでいくことです。

来月11日には、市制施行20周年の記念式典を行い、その式典の中でも中学生が主役となって未来への宣誓をしていただく予定です。

そして20周年の記念事業について少し話をさせていただきたいと思います。6月11日の式典に先行して、4月26日に瑞穂市老人クラブ連合会と瑞穂市

が共催で、守山区にある陸上自衛隊第10師団の音楽隊の演奏会をサンシャインホールで行いました。約900人の方にお集まりいただき、とても良いコンサートになりました。

その後、陸上自衛隊の方と2回ほどお会いする機会があり、お礼を申し上げたときに、それぞれの自衛隊の方が、「稀なことでしたね。よく来てもらえたね。」とおっしゃっていました。陸上自衛隊の音楽隊の方々は多忙なため、市のイベントに来ていただけたことが稀なことなので、開催できて本当に良かったと思っています。

陸上自衛隊の音楽隊に続いて、5月14日には朝日大学吹奏楽部による第2回の春のコンサートを行っていただきました。朝日大学の吹奏楽部は創部5年目ですが、全国大会で金賞や銀賞を受賞する全国でも名が通った吹奏楽部になっています。

昼の部と夜の部を行い、2部合わせて約1800人の方に来ていただきました。昼の部と夜の部の間に、少し外へ出て駐車場を見たところ、飛騨ナンバーや他県ナンバーの自動車が多くあり、遠方からもたくさんの方に来ていただきました。

コンサートは、1部では朝日大学の吹奏楽部、2部では県立岐阜商業のカラーガードチーム、そして3部では世界で1位になった沖縄県の西原高校のマーチングバンドが演奏を披露しました。司会を務めた朝日大学の和田先生が、西原高校の演奏は、初めの音を耳にしたときにそのすごさがわかるとおっしゃっていましたが、その音色は本当に良く、世界レベルの演奏を聴ける貴重な機会をいただきました。

このコンサートの後、北方警察署の署長さんがその2つの演奏会を見たかった、聴きたかったとおっしゃっており、大きな反響がありました。

6月4日には、瑞穂市民吹奏楽団のコンサートも開催を予定しています。こ

ちらは、穂積中学校の吹奏楽部が全国大会に出場した時のメンバーが中心となり、市制施行20周年用に特別な曲を披露していただけるので、ぜひ皆さま方にも足を運んでいただければと思います。

今後も20周年の特別の記念事業が目白押しとなっていますので、コロナ禍で薄れている地域の絆など、皆さんの絆づくりにも活用をしていただけたらと思います。少し話をさせていただきました。

続いて、学校における人権、平和、環境の取り組みについて、学校教育課長さんから説明をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○郷学校教育課長（「学校における人権、平和、環境の取り組みについて」の説明）

○森市長 ありがとうございました。学校教育課長さんから説明がありましたが、20周年を迎えて、これまで各学校で積み上げてきた伝統や歴史を継承しつつ、人権、平和、環境の3つのテーマに沿って、それらを新たに生かしていくような学校の取り組みに期待しています。

それでは委員の皆さんのご意見をいただきたいと思いますが、どなたかよろしいでしょうか。伊藤委員さんよろしくお願いいたします。

○伊藤委員 まず、私自身の個人的なことになりますが、20年前の合併のときに巢南町の生涯学習課で勤務をしていました。当時、生涯学習課では、この合併を教育委員会として、生涯学習課としてどう迎え、どう活かしていくかということが毎日のように話題になり、議論を重ねていたことを思い出します。それから早20年なのかと思いを馳せながら聞かせていただきました。

人権、平和、環境という大きな3つのテーマですが、本当に大きすぎるぐらいのものだと思いますが、子どもたちが今まで取り組んでいたことを含めて、

今後の瑞穂市の発展にどう関わっていくのかという位置づけが非常にしっかりしていることを今の説明から感じました。

特に、この3つの中で基本になるのは人権だと思います。例えば、人権といっても、子どもの人権、虐待、あるいは高齢者の人権など様々な課題があると思います。今回のG7においても、性の多様性LGBTQ+の支援団体がG7の会場で自分たちの行っている活動についてアピールをしていたということをニュースでも見ました。この人権というテーマの中に瑞穂市としてそういったLGBTQ+、性の多様性についての人権も含まれているのか、含めていこうとしているのかをぜひお聞きしたいと思います。以上です。

○森市長 ありがとうございます。まず、20年前の合併の時、私は穂積町の教育委員会で勤務をしており、伊藤委員が巢南町側で、私が穂積町側でいろいろな協議をしたことを思い出しました。本当に早いものでそれから20年が過ぎました。

今、伊藤委員がおっしゃいました人権については、人権尊重都市宣言をこの3月に市議会に議決をいただくまでの間に、市で準備して進めてきたことを説明します。

まず、昨年9月の議会でまちづくり基本条例の改正を行って、子どもたちがまちづくりに参画するような規定を明確にしました。

その後、教育委員会でいじめの防止対策に関する条例を制定して、それから人権尊重都市宣言をした経緯があります。

ご質問のあったLGBTQ+、性の多様性について、先ほどの朝日大学の吹奏楽部のコンサートの話に戻りますが、演奏の中で大学の吹奏楽部の方がコントのような演出をしていました。3人の男性がバラの花束を持ってプロポーズする場面で、2人の男性はバラの花束を女性の方に渡して、2人とも女性にフ

ラれてしまいましたが、最後の1人は、その女性の隣にいた男性の人に花束を渡し、受け取られたという、LGBTQ+を演出に取り入れていただきました。

また、LGBTQ+について、市民の方からも2、3件問い合わせが来ておりますし、県でも知事が県全体の方向性を示すとおっしゃっています。

瑞穂市では、来年度に向けて1回目の事業ヒアリングを行いました。その中に、今年度中にLGBTQ+、性の多様性について、市がどのような方向性を示して進めていくのかを年度内の早い段階で検討をし、もし予算が必要になるのであれば、来年度の予算にしっかり反映をさせていくような計画をしています。

先進的な市、関市や海津市では、性の多様性に関する宣言やパートナーシップ宣言などを行っているようです。周りの他市町村の状況も確認しながら、進めている状況ですので、よろしくお願いいたします。

他の委員さんよろしかったでしょうか。大平委員さんお願いします。

○大平委員 市制施行20周年は、学校にとっても非常に大事なことで、それぞれ実績があるので、それを活かしてほしいです。

平和に関して申し上げますと、今まで、特に中学生は広島の実爆ドームなどを自分の目で見て、戦争の惨禍を学んできたと思います。また、ちょうどG7でウクライナの大統領が来日しました。いろんなところで平和に関することを目にしているので、それに繋がるような、平和への意識が広がるような、総合的な教育や議論ができるといいと思います。平和宣言もしていただいています。ただそれらを見ているだけではなく、いまの世界の状況にどうかかわるかという議論をすることも大事だと思います。私たちもいつも目にしていることなので、なにか受け継がれることがあればいいなと思います。以上です。

○森市長 では、教育長さんお願いします。

○服部教育長 まだ私自身の構想ですが、今年度まで「防災」についてみずほ未来プロジェクトで取り組んできました。そして3年の区切りがつきましたので、今後は、人権、平和、環境について、みずほ未来プロジェクトで課題をもって中学生が取り組む、いわゆる総合的な学習の時間での取り組みができるといいなと思っています。大平委員もおっしゃいましたように、広島や長崎に学ぶとともに、それを受けて今の現代はどうかというような形で、子どもたちがさらに課題追及をしていくことができたらいいなと考えております。

○森市長 ありがとうございました。では、「瑞穂市市制施行20周年を迎えて」については以上にしたいと思います。

議題 保育士支援アドバイザーについて

○森市長 続いて、2つ目の議題である「保育士支援アドバイザーについて」です。

私の2期目のマニフェストの中で、「保育、教育の充実」があります。今、保育士さんや学校の先生方は若い先生が増えてきていますが、若い保育士さん1人で担任するということが難しいということで、今年度から保育士支援アドバイザーを設けております。幼児教育課に設置し、各保育所における保育士へのアドバイスをを行っています。詳しくは、幼児教育課長から説明をしていただきます。

○今木幼児教育課長 （資料に基づき、「保育士支援アドバイザーについて」の説明）

○森市長 ありがとうございました。私は、保育所の所長会に年に2回ほど出席し、保育所の状況などを聞いたり、予定が合ったときは保育所の公開保育も拝見したりしています。この5月の所長会に出席したときに、今の所長会は連絡とか調整が主になっているような気がしたので、少し所長さんたちには厳しかったかもしれませんが、保育所の所長会の在り方についてお話させていただきました。保育士さんの力の差と言っては申し訳ないですが、その力量の差によって、子どもたちの発達や成長に支障が起きないように、それぞれ保育士さんの課題や保育士さんの力量の不足を経験によるものと別の要因によるものの2つに分けて、それぞれの保育所で洗い出し、保育所の所長会の中でどのように検討していったらいいのかということをお話しました。保育士さんの課題や保育士さんの力量の不足が、不適切な保育につながることはないように所長会でお話をしました。その不適切な保育というのは、今、瑞穂市ではありません。不適切な保育について、幼児教育課長さん、少し話していただけますか。

○今木幼児教育課長 （「不適切な保育について」説明）

○森市長 急に振って申し訳なかったですが、不適切な保育を起こさないために、保育士の研修会を年に3回行っていますので、私もその研修会を見に行きたいと思っています。

少し焦点がズレましたが、保育士支援アドバイザーについて委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。加木屋委員よろしいでしょうか。

○加木屋委員 ありがとうございます。まず、私の方からは、保育士支援アドバイザーを設置していただけたことに、感謝したいと思います。私自身、3人の子どもを育ててきた経験から申し上げさせていただきますと、子どもは、日々成長をします。日々、何をやるかわからない。命の危険も伴う。そんな中で、常に子ど

もと向き合いながら自分自身を保ち続けることは、とても難しいことだと思います。保育所の先生方もやはり人です。

しかし、保育に対しての危険、不適切な保育は、あってはならないことだと思いますし、ましてや命にかかわることというのは絶対あってはならないことだと思います。それらを起こさないためにも、一人で抱え込まないことが大事だと思います。そして、きちんとした子どもたちに成長させていただくためには、保育所の先生自身が笑顔で子どもたちと向き合えるような環境がとても大事だと思いますので、保育士支援アドバイザーのような、いつでも安心して頼れる存在というのはとても大きいのではないかなと思います。

そのため、このとても大きな重要な役割をされる方を配置していただくことによって、保育所の先生方に生き生きと仕事をしていただき、それが子どもたちの成長につながっていくという、本当にありがたい政策をしていただけるなと思い、とても期待しています。よろしくお願いします。

○森市長 加木屋委員ありがとうございました。この保育士支援アドバイザーの成果や活動をまとめて、皆さんにご報告できればと思います。

それではお時間の関係もありますので、「保育士支援アドバイザーについて」は、以上にしたいと思います。

議題 市の人口減少対策について

○森市長 続きまして、3つ目の議題である「市の人口減少対策について」です。

今、瑞穂市では人口が増えていますが、これからは確実に瑞穂市においても人口減少が見込まれるため、対策をしていかなければなりません。人口が増えている今、人口減少対策ができるというメリットを最大限に活かした政策をし

ていきたいと思っております。今の人口の状況について、事務局から説明をお願いします。

○野田総務課長 （資料に基づき、「市の人口減少対策について」の説明）

○森市長 ありがとうございます。まず、2022年10月1日現在で、日本の人口が75万人減少しています。4年前にどれぐらいの人口が減少していたかという、40万人ぐらいです。

この人口減少による一番の問題は、働き手、担い手不足になってくるということです。国が人口減少対策、特に少子化対策に力を入れてきた背景には、昨年度1年間に、新しく誕生した子どもが77万人になったことがあります。新しく生まれる子どもが80万人を切ったことが、従来の予想よりも8年前倒しになったことに危機感を持ち、政府が少子化対策に力を入れて、子ども政策予算倍増計画が進められている背景があります。

瑞穂市の1年間に生まれてくるお子さんは、多いときで650人ぐらいです。2年前のコロナ禍で一番少なくなったときは、460人ぐらいでした。一昨年は、550人ぐらいまで回復をしてきています。私が結論を申し上げるわけではありませんが、人口減少対策、少子化対策は、それぞれの自治体、市町村の現状に応じた人口減少対策をすることが一番大切なことです。先ほどの資料をご覧くださいと、穂積小校区と南小校区では人口が増えていますが、西小校区と中小校区では、人口が減っています。こういった現状をしっかりと把握して、この地域に特化した人口減少対策が必要だと思います。

政府の方では、子育て支援の拡充ということで、児童手当の所得制限をなくす、支給対象を高校生までにする、大学の授業料を後払い、出産費用の保険適用などの制度も設けられるようです。

そして、保育士の3歳未満児の配置基準を子ども6人に対して1人、0歳では3人に対して1人の見直し、また、学校給食の無償化なども6月までをめぐりに検討されている状況です。

先日、ある西濃地区の町長さんとお話をしていた時に、昨年の1年間の出生数は17人だったとおっしゃっていたのですが、それを聞いたときに、保育料も給食費も全部無償化にしないと子どもの数が増えない、しかし、出生数が増えるという保証はないという状況で、町の存続も厳しくなるのではないかと感じました。ただ、この町と瑞穂市は、また状況が違うと思います。

では、この人口減少対策については、すべての委員さんからご意見をいただきたいと思います。瑞穂市にあった人口減少対策など、何かご意見があればお聞かせいただきたいと思いますのでよろしくお願いを申し上げます。森下委員さんからよろしくお願いします。

○森下委員 人口ピラミッドを見ると自動的に人口が減っていくのはもう仕方がないと思います。瑞穂市としてどうするかということを考えたときに、現状では、若い世代が増えつつあると思います。そのため、若い世代に子育てしやすいことを全面的に押し出していくのが一番早いと思います。

例えば、サンコーパレットパークのような、子育てしやすい環境を押し出して、外から人が転入してこないといけないと思います。そういうところをうまく施策に結び付けるといいと思います。

○森市長 昨年、オープンしたサンコーパレットパークも子どもたちの遊びの場を中心とした広場に位置付いていて、イベントがなくても駐車場がいっぱい、イベントを行うと駐車場が不足する状況なので、そのサンコーパレットパークを核として、市外の人にアピールしていきたいと思っています。

例えば、民間の方をお願いして、巢南の西地区、中地区にはこんな住宅の空き家がある、こんないい物件があるというようなことを、外部の方に勧める。その内、10組のうち1組くらいの子育て家庭は、土地が広くて、ペットを飼ったり、休みにはバーベキューをしたり、家庭菜園ができる巢南地区を選択すると思います。サンコーパレットパークの市外からの来場者にそういった事業もこれから展開をしていきたいと思っております。

では、大平委員さんよろしくお願いします。

○大平委員 私は、一番子どもの人口が減っている西地区で自治会長をやっていますが、今年の新入生が18人で、子ども会の休会が増えています。地域で保護者の方のバックアップする体制も作っていかないといけないと話をしています。

その西小校区とか中小校区についていえば、森市長がおっしゃった住宅の問題、空き家の利用ということがありますが、農業振興地域なので難しいかもしれませんが、小学校周辺に分譲地区を造成して、自然の中で農業をやりながら子育てしたいという人たちが引っ越して来たくなるような都市政策をしてもらいたいと思います。

また、幼児教育課が働く女性が子育てしやすい環境を作っていると思いますので、なるべく近くに子どもを預けやすい環境がさらに充実してくると、今、子どもが1人の家庭でも、2人や3人育てようかなとなっていくと思います。

○森市長 大平委員さんがおっしゃったように、穂積地域では市街化区域になっていきますので、住宅を建てようとするれば分譲住宅もできます。しかし、西地区や中地区ではそのようにはいきません。かなり田んぼが埋まってきて、住宅が立ち並んでいます。これからの4年間の中で、都市計画マスタープランをどのように改正をしていくか、まちづくりをしていくかが1つのポイントになると思い

ます。

では、加木屋委員さんお願いします。

○加木屋委員 瑞穂市の環境がいいという評判が確かにあります。私自身も主人の転勤でほかの市町村を転々としてきて、最終的にこの土地が子育てしやすいということで選ばせていただいています。やはり、そういう方がとても多いので、外から入ってくる方が、例えば教育委員会で言うと英語に特化した教育をしていることや保育の充実という点でこのまちを選んでいる方も多いかと思います。

私が少し気になるのは、このまちに若い人たちが入ってきて子育てをしていますが、今度その子どもたちが外に出ていってしまうということが多い気がします。中学校を出て、高校を出て、大学に行ったら外へ行き、就職してそのまま他県へ行ってしまうことがとても多いような気がしているので、このまちに根付いてもらうというのも1つの大きな課題だと思います。実際に瑞穂市を離れる子どもたちの数名に瑞穂市の状況をどう思うか聞いたところ活気がないと言われました。具体的には、駅周辺の問題や学生のまちのわりには、このまちにずっと居続けたいと思う魅力がないそうです。いろいろな政策をされているのは知っていますが、それが誰目線になっているかが大事だと思います。これから子育てする人たちにとってはいい環境かもしれないですが、学生やこれから社会を担っていく子どもたちには、少し魅力がないのかなと思いました。

学生たちに魅力とは何かを聞くと、やはり駅前の活性化や人気の店舗、道の駅を充実させて観光になるような目玉を作るなど具体的な意見をいただくとともに、市自体が私たちにあまり目を向けてくれないのかなという声を聴き、少しドキッとさせられました。以上です。

○森市長 朝日大学の学生さんからも駅前の辺りのことは十分聞いています。まちの利

点を生かした駅周辺整備が、活気を増やす基盤整備の1つだと思います。

では伊藤委員さんお願いします。

○伊藤委員 これまでの委員さんが話されたことと共通するところが多いですが、私なりに調べたところ、2020年の国勢調査で、市民約5万6千人の中で65歳以上が約1万2千人でした。これは市町村の中でいうと42位で、そのぐらい高齢者の数が少ないということです。また、15歳から64歳までが約3万5800人で、これは1位でした。つまり、働き盛りが多いということです。さらに、それに伴って14歳以下が約8千600人で、これも1位でした。瑞穂市では、この傾向がしばらく続くと思います。

特に、今、加木屋委員さんが言ったように、0歳から14歳までの子ども達が、将来10年後、20年後に瑞穂市を自分が住みたいまちとして選ぶかどうかを考えていくことがこの人口減少への対応だと思います。

瑞穂市は昔から生活環境のよさと交通の利便性が人口増加に影響していると思いますが、その強みにプラスアルファした何か瑞穂市としての強みを見つけて瑞穂市の住みやすさを伝えることが大切だと思います。

例えば、共働き世帯が、仕事と育児を両立しやすいとか、それに伴う保育、教育が充実しているとか、そういったことが今後の人口減少にかかわる課題を解決していく1つの視点だと思います。ただ、大きな課題ですので、その大きな課題を解決していくためには、小さな課題を解決し、それを積み上げていくことが大事だと思います。

住みやすいまちというのは、市からの情報発信が充実している。情報発信が、若者にも、子どもたちにも魅力を持ってもらうきっかけの1つだと思います。情報発信によって多様な地域や市民が参加できるような企画も生まれてくると思いました。

○森市長 ありがとうございました。お一人お一人違ったコメントをいただいておりますが、私も今までを顧みて、これからしっかりやっていかなければならないと思っています。

あるコンサルタントの方がおっしゃっていましたが、16歳から64歳の人口で瑞穂市のようなまちはないそうです。若い世代に魅力を感じてもらうために、駅周辺、例えば、新庁舎建設後に、この庁舎の跡地にこのようなことをやればすごいまちになっていくというようなことを提案いただいておりますので、しっかりこの先進めていきたいと思っています。

最後に、服部教育長から何かご意見があれば、お願いします。

○服部教育長 皆さん、いろいろご意見いただきまして、ありがとうございます。瑞穂市教育大綱に、「瑞穂を愛し、瑞穂に誇りを持ち、瑞穂を担う人づくり」という文言があります。これに向かっていくことに尽きると思います。

具体的には、子どもにとっても、教員にとっても、幸せな環境、学校づくりをまず進めることが大事だと思います。子どもでいうと一人一人大事にされていることや学校が楽しいと思えることが大切です。そう思えるためには、そこに勤めている先生方がやりがいを持って働くことが、不可欠です。働き方改革を進めるのは当然のことながら、先生方の指導力や資質向上を図ることもさらに大事にしていきたいと思っています。以上です。

○森市長 ありがとうございました。今日皆様方からご意見、ご提案をいただきましたことを教育委員会、そして市長部局でも進めていきたいと思っています。

今日の議題になったことは、市制施行20周年、保育士支援アドバイザーを除いては少し大きな話題が多かったので、次回はもう少し絞った議題で進めて

いきたいと思います。

最後になりますが、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第7項の規定により、私が議事録を作成させていただきますが、内容は私に一任をしていただくということでよろしいですか。

(全員同意)

ありがとうございます。

会議の円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。それでは事務局へお返しをしたいと思います。

○野田総務課長 本日は、大変熱心にご審議をいただきまして誠にありがとうございました。これをもちまして、総合教育会議を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

閉会 午後2時14分